

令和5年度 事業報告

第1 事業に関する事項

1 豆類をめぐる諸情勢

(1) 主産地北海道における豆類の生産

北海道での令和5年産作付指標面積は小豆22,100ha、豆類合計（大豆を除く。以下同じ。）29,306haに設定された。これに対して、小豆の作付面積（農林水産省公表）は20,900ha（前年比1,800ha増）、金時は3,930ha（同230ha減）、手亡は1,270ha（同50ha減）となった。

令和5年産の播種作業は、小豆、金時ともに平年並に終了した。

その後、小豆は、生育初期から高温で経過したことで、着さや数が平年に比べ多かった一方、小粒傾向となったことに加え、登熟から収穫期にかけ降雨も多かったこと等で濃赤粒を生じるなど品質も低下した。いんげんは、生育初期から開花期まで高温傾向で経過し生育はおおむね順調となり、着さや数が多く子実重は平年を上回ったものの、登熟期からの高温及び断続的な降雨等によりへそ周辺の着色不良や色流れ粒を生じるなど品質が低下した。

上記のとおり生育状況の推移においては小豆、金時ともに生育は平年より早く、収穫を期待する向きがあったものの状況は秋以降一転した。

令和5年産の収穫状況は、農林水産省統計部「令和5年産小豆、いんげん及びらっかせい（乾燥子実）の収穫量」（令和6年2月27日公表）によると、小豆は、10a当たり収量は139kgで前年比33%減、収穫量は29,100トンで前年より10,200トン（26%）減少した。

また、金時は、10a当たり収量84kg（前年比31%減）、収穫量は3,300トン（同34%減）となった。手亡は、10a当たり収量110kg（同44%減）、収穫量は1,400トン（同46%減）となった。

この結果、豆類（小豆、いんげん等）合計の収穫量は34,010トンで前年より13,380トン（28%）減少した。

なお、令和6年産の作付指標面積は、小豆は22,100ha（前年同）、豆類（小豆、いんげん等）合計で28,300ha（前年比1,006ha減）に設定された。

北海道における豆類の生産状況

(単位：ha、kg/10a、t)

区 分	作付面積			単収		収 穫 量			作付指標面積(注)	
	4年	5年	増減	4年	5年	4年	5年	増減	5年	6年
小 豆	19,100	20,900	1,800	206	139	39,300	29,100	△10,200	22,100	22,100
いんげん等	5,780	5,450	△ 330	140	90	8,090	4,910	△ 3,180	7,206	6,200
うち金時	4,160	3,930	△ 230	121	84	5,030	3,300	△ 1,730	-	-
うち手亡	1,320	1,270	△ 50	195	110	2,570	1,400	△ 1,170	-	-
豆類(小豆、いんげん等)合計	24,880	26,350	1,470	-	-	47,390	34,010	△13,380	29,306	28,300
大 豆	43,200	45,300	2,100	252	253	108,900	114,600	5,700	37,900	41,200
合 計	68,080	71,650	3,570	-	-	156,290	148,610	△ 7,680	67,206	69,500

資料：農林水産省統計部「豆類（乾燥子実）及びそばの収穫量」等による。

(注) 作付指標面積の豆類合計には、えんどうを含む。

(2) 豆類の輸入状況

令和5年度(4月～3月)の雑豆の輸入状況は、小豆25.4千トン(前年度比74%)、いんげん24.0千トン(同73%)、えんどう11.8千トン(同90%)、そら豆2.7千トン(同82%)となっている。

中国からの小豆の輸入量は10.2千トン、前年度と比較して35%減に対して、カナダからの輸入量は13.2千トンで、16%減少した。

豆類の輸入量の推移(会計年度)

(単位：トン)

	令和元年度	令和2年度	令和3年度	令和4年度	令和5年度
小豆	29,705	22,546	23,534	34,336	25,362
うち中国	13,855	8,352	7,417	15,740	10,188
カナダ	14,760	13,690	15,355	15,843	13,241
いんげん	32,199	25,486	25,485	32,997	23,998
えんどう	15,873	18,781	15,189	13,109	11,754
そら豆	4,290	2,905	3,224	3,313	2,719

(注) 「いんげん」には、ささげ属等その他の豆、ささげ、き豆、竹小豆、その他を含む。

資料：財務省貿易統計

(3) 豆類消費

輸入物を含めた雑豆(小豆、いんげん、えんどう、そらまめの乾燥豆)の令和5豆年度(令和4年10月～令和5年9月)の消費実績は、前豆年度を24.7千トン下

回る 116.6 千トンとなり、このうち小豆は 75.8 千トン（4.9%減）となった。

（４）豆類の価格動向

北海道産小豆の価格は、令和 4 年 12 月から令和 5 年 10 月まで 30.5 千円（60kg 当たり。以下同じ。）で推移したものの、その後は北海道産小豆の作況不良の影響から上昇し、令和 6 年 3 月には 37.7 千円となった。

輸入小豆の価格も北海道産小豆の作況不良の影響から、中国産（天津）、カナダ産ともに令和 5 年 11 月に最高値（各々 21.0 千円、22.2 千円）となり、その後やや下落したものの、中国産（天津）は 20 千円台、カナダ産は 21 千円台で推移している。

また、バタービーン（ミャンマー）の価格は、令和 5 年 2 月以降 11 千円台で推移していたが、内政混乱による肥料・輸送コストの上昇、輸出先の拡大などから 9 月以降は上昇傾向に転じ、令和 6 年 3 月には 16 千円となった。

豆類の価格の推移（東京仲間相場）

（単位：円/60kg）

	R5 年 4 月	5 月	6 月	7 月	8 月	9 月	10 月	11 月	12 月	R6 年 1 月	2 月	3 月
小豆(国産)	30,500	30,500	30,500	30,500	30,500	30,500	30,500	32,775	34,500	35,444	36,000	37,700
（前年同月）	28,180	28,833	28,833	30,000	30,000	30,000	30,000	30,000	30,500	30,500	30,500	30,500
大正金時(国産)	40,000	40,000	40,000	40,000	40,000	40,000	40,476	41,000	41,000	41,000	41,000	41,000
（前年同月）	38,000	38,000	38,000	38,000	38,000	38,000	38,400	40,000	40,000	40,000	40,000	40,000
輸入小豆(天津)	19,800	19,500	19,500	19,500	19,500	19,700	20,310	21,000	20,750	20,500	20,768	20,800
（前年同月）	21,670	22,389	23,067	23,655	24,000	24,060	23,230	21,880	21,437	20,311	20,500	20,281
輸入小豆(カナダ)	20,200	20,000	20,000	20,375	20,500	20,975	21,310	22,170	21,950	21,556	21,768	21,800
（前年同月）	21,670	22,389	23,067	23,655	24,016	24,825	24,685	23,740	23,237	22,278	22,500	21,695
バタービーン(ミャンマー)	11,800	11,800	11,800	11,800	11,800	12,230	13,457	14,180	14,500	14,917	15,895	16,000
（前年同月）	8,900	9,278	10,095	10,500	10,500	10,500	10,410	10,015	10,605	10,950	11,000	11,543

（注）国産は東京深川倉庫前渡し、中間 2 等（現物）、輸入ものは横浜渡し、一次問屋基準（現物）

2 実施した事業

当協会の事業目的に即して、良品質な国産豆の安定供給に資する豆類に関する学術の振興（公1）及び健康に良い豆についての消費啓発を通じた食育の推進（公2）を実施した。その際、業務の的確かつ効率的な運営に配慮しつつ、協会の助成事業や直轄事業により、以下の各項目に記したとおり実施した。

なお、豆類振興事業に関しては、広く事業や課題を公募し、第三者で構成される審査委員会の選定結果に基づいて、令和5年度末までに、令和6年度豆類振興事業助成対象候補を選定した。

○ 良品質な国産豆の安定供給に資する豆類に関する学術の振興（公1）

[調査研究]

1 雑豆需要促進調査研究への助成（公募）

新たな雑豆の需要促進に資するため、大学、試験研究機関等の研究者が実施する、新需要開発及び健康維持・増進の各分野での調査研究として、次の5課題に助成した。

(1) 小豆摂取による腸内細菌の二次代謝産物を介した認知症予防に関する検討

大分大学医学部 講師 後藤孔郎

(2) 小豆に含有されるレクチンの機能性に関する研究

香川大学教育学部 教授 畦五月

(3) えんどうタンパク質のゲル化、乳化等特性を利用した食品加工品の調製

愛国学園短期大学 教授 江木伸子

(4) 秋田県在来「てんこ小豆」の新規栽培方法と加工開発

公立大学法人秋田県立大学 教授 櫻井健二

(5) 粉砕処理を利用した製餡技術

新潟県農業総合研究所食品研究センター 専門研究員 本間紀之

2 豆類事情調査

国内外において豆類の生産・流通・消費実態に関する調査研究を実施した。

国内関係では、令和4年度に引き続き、新たな豆類需要の開拓に向けた調査（有機豆類生産及び消費者意向調査）を実施するとともに、豆類和菓子の需要の動向と促進に関する調査（菓銘をもつ生菓子の登録無形文化財認定に伴う需要促進調査）を実施した。また、白花豆を対象とした新しい省力化技術の雑豆

生産への適用可能性調査事業を令和3年度、4年度に引き続き実施した。さらに、豆類品質・安全性確保のために、海外から輸入される豆類の安全性を確保するため残留農薬等を調査するとともに、豆類の品質向上に資する加工技術について調査した。また、豆類産地懇談会を開催し、講演「中国の雑豆事情」を広く一般向けにリモート配信した。

このほか、道府県の小豆の研究者を参集した試験研究情報交換会を地方独立行政法人北海道立総合研究機構十勝農業試験場の協力を得て開催した。さらに、京都府下における小豆関連の試験研究機関及び産地に生産・流通・加工等の専門家を派遣し現地検討会を開催した。

海外関係では、アルゼンチン共和国を対象とした豆類生産流通事情調査を実施するとともに、令和元年度（2年2月）のタイ以来3年振りに、カナダ・アメリカを対象に海外豆類事情調査団を派遣した。また、東南アジア諸国連合貿易投資観光促進センターからの要請に応じ、ミャンマーにおいて開催されたセミナーの講師として職員を派遣した。

[試験研究]

1 品種改良試験への助成（公募）

豆類の品種改良を促進するため、試験研究7課題に助成し、各機関で実施された。

(1) リモートセンシング型の収量評価および実需者型の加工適性評価を活用した金時系統の選抜強化

地方独立行政法人北海道立総合研究機構十勝農業試験場

(2) ゲノム育種法を活用した多収およびダイズシストセンチュウ抵抗性金時の開発促進

地方独立行政法人北海道立総合研究機構中央農業試験場

(3) 小豆ゲノム育種基盤の構築による除草剤耐性マーカーの開発

地方独立行政法人北海道立総合研究機構中央農業試験場

(4) 道央地域で安定生産できる中晩生小豆品種の開発強化

地方独立行政法人北海道立総合研究機構中央農業試験場

(5) 小豆コンバイン収穫向け系統における選抜・評価体系の最適化と開発強化

地方独立行政法人北海道立総合研究機構十勝農業試験場

(6) 小豆における食味評価法の確立と温暖化に対応した系統の選抜強化

地方独立行政法人北海道立総合研究機構十勝農業試験場

- (7) DNA マーカーによる小豆ダイズシストセンチュウ抵抗性系統の選抜強化
地方独立行政法人北海道立総合研究機構十勝農業試験場

2 栽培法試験への助成（公募）

豆類の栽培法の改善を図るため、試験研究2課題に助成し、各機関で実施された。

- (1) 輪作体系における丹波大納言小豆栽培での効果的な排水を可能とする機械化技術の確立

京都府農林水産技術センター農林センター

- (2) 能登大納言小豆における安定多収栽培管理技術の開発と体系化

石川県農林総合研究センター農業試験場

3 開発試験への助成（公募）

豆類の加工、調製過程における新技術を開発するため、試験研究3課題に助成し、各機関で実施された。

- (1) 紫色色素の分析を基盤とした、加工特性を向上させた小豆の育種をめざす開発試験

愛知工業大学

- (2) 京都アズキ遺伝資源の類縁関係の解明とミニコアコレクションの開発

京都先端科学大学

- (3) 豆類品質・品位評価判定の自動化技術開発

公益財団法人とかち財団

4 試験研究の推進

産業界のニーズに対応した新品種開発を短期間で効率的に行うための革新的育種システム構築実証事業を引き続き実施した。また、新たに、小豆コンバイン収穫適性品種導入の加速化を図るため、小豆・菜豆のコンバイン収穫に関する効率化実証事業を実施した。

[技術普及事業]

1 技術普及事業への助成（公募）

豆類栽培の優良農家、集団を表彰しその成果を広く紹介する全国豆類経営改善共励会の開催、作付指標面積に即して良品質豆類の計画的な安定生産を図る

ための良品質豆類生産安定指導事業等の4事業に助成した。

2 技術普及事業の推進

北海道における豆類生産の安定化のため各種調査や指導を支援した。

また、豆類栽培管理技術の高位平準化と計画的な作付けによる生産の安定化を図るため、農業者及び農業関係者を対象に、豆作り講習会を北海道4地区で開催した。

(豆作り講習会の開催概要)

講習内容：豆類を巡る情勢、実需者からの道産豆類への要望、豆類の計画生産・需給状況、良質豆類の生産技術等に対する説明・講演。

日程等：令和6年2月15日：伊達市、2月16日：旭川市、2月20日：津別町、2月21日：芽室町にて開催。参加者は合計517名。

[豆類生産対策事業]

1 豆類種子対策事業への助成（公募）

高品質の豆類生産に大きな役割を果たす優良種子の安定生産と普及を図るため、豆類原原種、原種、種子の増殖事業等の3事業に助成するとともに、北海道における豆類新品種の開発普及事業に助成した。

○ 健康に良い豆についての消費啓発を通じた食育の推進（公2）

【豆類消費啓発事業】

1 豆類消費啓発事業への助成（公募）

豆類・豆類製品・豆料理に関する一般消費者の理解増進、知識啓発等を図るため、豆類関係団体が連携して実施する「豆の日」キャンペーン、主婦等を対象とした「豆！豆！料理コンテスト」（応募総数 1,052 作品）、豆料理教室（全国各地 55 教室で開催）等を行う事業をはじめ、豆類及び豆類製品の生産・流通等に関係する団体がそれぞれの専門性を生かして、豆類・豆類製品に関する講習会、調査、資料配布等を行う 9 事業に助成した。

2 豆類消費啓発事業の推進

（1）豆を使った食育の推進

学校給食における豆料理提供機会の拡大・定着を図るため、栄養教諭・学校栄養職員豆料理講習会（23 都道府県・25 箇所、受講者数 1,144 名）及び児童、父母も参加する親子豆料理教室（4 県・5 箇所、受講者数 194 名）を開催した。

豆類に関する児童の理解促進を図るため、豆を使った食育指導用の学習読本を制作し、全国の小学校、各都道府県学校給食会等 8 千箇所に配布案内を行い、利用希望のあった小学校 886 校に 7 万部を配布した。併せて、同資料の効果的利用に資するため、指導者向け解説書 4 千部、食育 DVD800 部、豆標本セット 800 セットを制作・配布した。

また、幼稚園児等を対象に豆を題材として制作した食育絵本「だいすき！まめエイト」及び「ありがとう！まめエイト」を 911 園に配布するとともに、絵本を題材として制作した紙芝居を利用希望のあった 77 園、豆標本セットを 109 園、金時豆の栽培体験ができる豆栽培セットを 100 園に配布した。

（2）豆類消費啓発資料の制作・配布

食に関する指導者や一般消費者の豆類に関する知識啓発及び理解増進を図るため、豆の種類・特性、豆の健康栄養性、豆の基本的調理法、豆料理レシピ等に関する情報を掲載した各種資料を作成した。

これらの資料を協会ホームページで紹介し、希望に応じて消費者等に配布するとともに、栄養・家政学系大学、栄養・調理専門学校、栄養士会等の食育指導団体、消費生活センター等の消費者指導啓発機関、豆類関係団体等に配布案内を行い、希望に応じて配布総数 6 万 4 千部を配布した。

(3) 豆類消費啓発情報の提供

一般消費者に豆料理、豆の調理法、豆の栄養等に関する情報を伝達するため、栄養・料理専門誌、料理レシピサイト等に広告・記事を合計 6 回出稿した。

また、当協会ホームページ、ユーチューブ、フェイスブック、インスタグラムを活用して、豆製品の製造方法、豆食品、豆料理など豆の様々な情報を提供した。

(4) 豆類消費啓発イベントの推進

一般消費者の豆類に関する消費啓発及び理解増進を目的として豆類関係団体が制定した「豆の日」(10月13日)や「豆月間」(10月)の認知向上とその定着を図るため、「美味しく健康・豆料理」をテーマとして、中央イベントを開催し、その内容を全国紙に掲載して広く周知した。

また、「世界マメの日」(2月10日)を契機として豆類の消費啓発を推進するため、食料システムとマメの関係をテーマとする講演及び国内外で生産され流通しているいろいろな豆を用いた多様な豆料理を紹介・試食を行うセミナーを開催した。

[情報資料の提供等]

豆類に関する情報を発信するため、季刊誌「豆類時報」を4回発行した。

当協会のホームページについては、一般消費者や豆作り関係者への情報提供の強化のため、豆イベント情報の充実を図るとともに、簡単な豆の下ゆで方法の動画や豆作り講習会テキストの掲載等を行った。

第2 管理運営に関する事項

1 評議員会、理事会、監事監査

(1) 評議員会

- ① 定時評議員会 令和5年6月13日(火)

場 所：TKP新橋カンファレンスセンター ホール14G

出席者：評議員8名、理事3名、監事2名

次の議案を審議し、決議した。

第1号議案 令和4年度事業報告及び決算の承認について

第2号議案 監事の選任について

- ② 臨時評議員会 令和5年7月10日(月)(書面決議)

決議の省略の方法により次の議案を審議し、決議した。

第1号議案 理事1名の選任の件

(2) 理事会

- ① 第1回理事会 令和5年5月23日(火)

場 所：TKP新橋カンファレンスセンター ホール15C

出席者：理事7名、監事2名

次の議案を審議し、決議した。

第1号議案 令和4年度事業報告及び決算の承認について

第2号議案 監事候補者の選定について

第3号議案 令和5年度定時評議員会の開催について

(報告事項)(1) 職務の執行状況について

- ② 第2回理事会 令和5年7月5日(水)(書面決議)

決議の省略の方法により次の議案を審議し、決議した。

第1号議案 理事候補者1名の選定の件

第2号議案 決議の省略の方法による評議員会の招集の件

- ③ 第3回理事会 令和5年10月17日(火)

場 所：航空会館ビジネスフォーラム B101会議室

出席者：理事6名、監事2名

次の事項の報告がなされた。

- (報告事項) (1) 令和5年度上期事業進捗状況及び収支状況について
(2) 職務の執行状況について

④ 第4回理事会 令和6年3月22日(金)

場 所：航空会館ビジネスフォーラム 501会議室

出席者：理事8名、監事1名

次の議案を審議し、決議した。

第1号議案 令和6年度事業計画及び収支予算について

第2号議案 特定費用準備資金等に関する規程の整備について

第3号議案 特定費用準備資金の目的外取崩しについて

第4号議案 特定費用準備資金の保有について

(報告事項) (1) 職務の執行状況について

(3) 監事監査 令和5年5月9日(火)

場 所：日土地内幸町ビル2階 (公財) 日本豆類協会会議室

出席者：監事2名

令和4年度の業務の執行及び財務の処理状況について、監事による監査が実施され、いずれも正確かつ適正である旨の監査報告書が提出された。

2 役員等の異動

理事

- ① 令和5年6月20日付 退任

小野寺俊幸

- ② 令和5年7月10日付 選任

樽井功

監事

- ① 令和5年6月13日付 選任

杉山幸一、鈴木宏志

事業報告の附属明細書について

令和5年度事業報告には、「一般社団法人及び一般財団法人に関する法律施行規則」第34条第3項に規定する附属明細書「事業報告の内容を補足する重要な事項」が存在しないので作成しない。